

府立中津支援学校 令和6年度「学校運営協議会」議事録（第1回）

日時	令和6年7月12日（金）10：00～12：00			
出席者	協議会委員	所属等	学校事務局	校務分掌等
	川田 和子	大和大学 教授	木下 美香子	校長
	大橋 弘嗣	大阪整肢学院 院長	林 佳巨	教頭
	花咲 典之	中津連合振興町会 会長	野島 香織	小学部主事
	園田 葉子		宇賀 功二	首席兼中学部主事
	梅谷 通代	中津保育園 園長	三木 智裕	高等部主事
傍聴人				
おもなテーマ	・ 令和6年度 学校経営計画 ・ 令和7年度 教科書選定に向けて ・ 授業見学 他			
協議内容の概略	1 令和7年度 教科書選定にむけて 教頭より資料に沿って説明した。また会場内にて、今年度採択・使用している教科書の一部を見本として展示し、自由に見ていただいた。 2 令和6年度 学校経営計画について 学校長より、昨年度末の時点から変更した箇所、今年度重点的に取り組んでいる箇所について説明を行った。 3 令和6年度 学校教育計画について 学校教育計画のなかから、学部に焦点を当て、学部主事より各学部の目標や重点的な取組みについて説明した。 （委員より） 地域との連携・協同という観点で、地域として支援学校が参加できるような取組みを考えていきたい。 土曜保育で参加可能なものについては、大阪整肢学院の方々に来ていただけるようお誘いしている。 （事務局より） 各学部の交流学習や、大分県立中津支援学校との交流学習の経過報告について補足説明を行った。 また、令和6年8月9日実施予定の『ボランティア講座』について、また、令和6年8月20～22日実施予定の『中津支援教育展～先生たちの文化祭～』の紹介をした。 4 授業見学 高等部、中学部、小学部の順で、授業を見学した。 5 保護者からの意見書等について 意見書等の提出はなかった。 6 質疑応答・協議 （委員より）			

- 大阪整肢学院にいたときの子どもたちの様子と、学校での様子での違いが見られた。学校に来るということが社会的な経験として重要なことだと実感した。引き続き、学校で沢山の事を経験・体験していくことで成長していくので、将来的の社会参加を見越して、引き続きお願いします。
- 学校経営計画の会議の時間設定について、大事だと感じた。地域での会議も始まりの時間だけでなく、終わりの時間を決めることで会議がスムーズに進行し、2時間で3つの会議をもつことができたこともあった。会場費の節約にもつながった。
→ 1学期は年度当初ということで、様々な教育活動の企画・立案が多く45分では難しいところもあったが、今後、各部署の状況を見ながら可能な限り進めていきたい。
- 学校経営計画の障がい理解推進と外部人材活用について、今年度もドラムを通して関わらせてもらえることを楽しみにしている。大阪音楽大学の学生も楽しみにしており、中津支援学校の児童生徒が楽しんでいるだけではなく、学生たちにとっても大変刺激的であり勉強になっている。音楽の力による子どもたちの表情や様子の変化に直接関わることで、支援教育への興味関心が高まり、その方向の進路に進みたいという学生が必ず出てくる。人材育成、これからの人材を育てるという観点を学校教育計画の視野に入れてもらっていることはありがたい。
- ICTに関して、先生方が勉強されている。先生方の熱を感じる。ただし、すべてICTを活用すればいいわけではない。実際の体験も同じく大事。先ほどの授業見学（小学部の授業）を見て、冷たい、重い、音等を体験させることのバランスを考え授業展開していくことも大変重要だと感じた。
- 支援学校での取組みを、ファシリテーションボール等、遊びのなかで取り入れさせていただいている。今回も、今日学んだことを持ち帰り、生かしていきたい。特別な子どもだけでなく、みんなが特別な子どもとして捉え保育している。
- 会議時間の設定（終了時間）は、早速取り入れたい。
- 自立活動を主体とした授業作りが大多数になっているなかで、教科化を進めていかれている。自立活動のつぎに繋がっていく学習内容が、知的障がいの学習指導要領になると聞いている。教科書採択について、2種類の学習グループが沢山設定されており、細やかに子どもたちの実態に応じた内容を考えられている。
- 1人1研究の進捗状況を楽しみにしている。
- 防災士は、毎年1名ずつ増やしていったのか。
→ 一昨年度3名いたが2名転勤して、昨年度より1名体制。
学校として積み重ねていくために、今年度もう1名増やし、2名体制で取り組めるよう計画している。
- 人材育成について、本学生に出前授業をしていただいていることも大変感謝している。